

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 尾崎 朋子

文 責 佐々木正道

発行日 平成30年10月31日

つらい時こそ笑顔で

校長 尾崎 朋子

今月は、小中音楽発表会に3年1組が参加して素晴らしい合唱を披露したのをはじめ、合唱部の中連音楽発表会やコンクール等への参加、野球部の全道大会出場や運動部の各種大会での活躍など、まさに文化の秋、スポーツの秋となりました。また、漢字検定や英語検定に挑戦したり、大事なテストを終えて、自分の目標に向かってじっくり勉強に取り組む生徒も増えています。

さて、1994年にリレハンメルオリンピックのノルディック複合競技で金メダルをとった、小平町出身の阿部雅司さんの講演を聴く機会がありました。阿部さんは中学時代、野球と複合の両方をやっていましたが、恩師の薦めで複合を選択し札幌の高校へ進学します。ところが、親元を離れ頑張ろうと思った矢先に、お母さんが病気で亡くなります。寂しさから投げやりになり、生活態度が乱れた時期もあったそうですが、卒業前の大会に、これが最後と全力をかけて挑んだところ、見事な成績を残します。

そのことを機に就職が決まり、日本の複合の代表として活躍を続けます。しかし、よい状態の時ばかりではありませんでした。阿部さんはオリンピックに3回出場していますが、2度目の出場となったアルベールビルオリンピックでは、ノルディック複合のリーダー格でありながら、団体チームのメンバーから外されます。しかもその時の団体チームは、日本初となる金メダルを獲得します。団体とはいいいながら他の競技と違い、補欠である阿部さんはメダルをもらえませんでした。この時、阿部さんは引退を考えたといいます。しかし、現地から奥さんにそのことを電話で伝えたまさにその時、奥さんから妊娠を告げられ、「自分には金メダルの代わりに子供を授けてくれた」という思いから、わが子にスキーをしている姿を見せたいと思い直し、競技を続けることを決意します。

その後は猛練習に励み、1993年の世界選手権団体で金メダルを獲得し、その勢いで1994年のリレハンメルオリンピック団体でも悲願の金メダルを獲得しました。この時、日本チームはジャンプが終わった段階で2位のノルウェーに5分の差を付けていましたが、1走目で4分まで詰められます。2走目の阿部さんは、その差をもう一度広げ、アンカーにつなげるという素晴らしい力走を見せました。阿部さんの苦勞を間近で見てきた他の2人の選手は、表彰台で阿部さんを肩車で持ち上げ喜びを分かち合いました。そして、その後のインタビューで、「阿部さんと金メダルを取れたのがうれしい」と話しています。



「リレハンメルオリンピックで
阿部さんが獲得した金メダル」

阿部さんは翌年引退し、その後は2014年ソチオリンピックまで20年間、日本代表コーチを務めました。現在名寄市の特別参与に就任し、冬季スポーツの振興を行っています。

阿部さんは、自分の人生において「スキーで学んだ大切なこと」として、次の3つのことをあげていました。

- 1 失敗を恐れずいろいろなことにチャレンジする
- 2 相手の立場になって物事を考える
- 3 目標や夢を口に出して言う

そして、「つらいときこそ笑顔で！」という言葉で締めくくりました。生きていくうえでは、思い通りにいかないことの方が多いと思います。でもきっとそれは誰もが経験することだと思います。そんな時こそ前を見て1歩踏み出してみる必要なのかもしれません。